

第 52 回 日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会「高校生オープン学会」レポート

2013 年 10 月 26 日（土）・27 日（日）に、松山大学キャンパスにて第 52 回 日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会が開催された。当該学術大会では、「ファーマシーイノベーションを目指して、強めよう薬・薬・薬の絆」を主題とし、様々なシンポジウムや特別講演が開催され、中四国の薬学部教員および薬学部学生をはじめ、病院薬剤師・薬局薬剤師など 1500 名ほどが参加した。

様々なプログラムの中、10 月 27 日（日）には「高校生オープン学会」（高校生による研究発表会）が開催された。当該オープン学会の開催目的は、薬学関連分野発展の原動力ともなる若い世代の育成である。日本薬学会中四国支部（主催）によって提案された当該企画は、文部科学省 大学間連携共同教育推進事業「四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革」との共催、および愛媛県教育委員会の後援のもと、次のようなスケジュールで行われた。

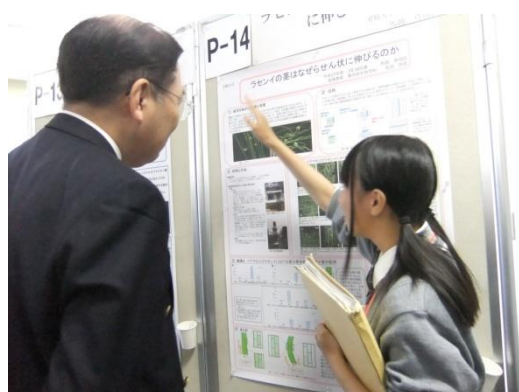
11:00 ～ 11:30 ポスター発表

12:00 ～ 12:45 ランチョンセミナー

12:55 ～ 14:25 口頭発表

当日は、開催地である愛媛県をはじめ、高知県・香川県・岡山県の中国四国地区の高等学校 10 校から、高校生・保護者・引率教員など総勢 100 名以上が参加した。

ポスター発表のセッションでは、6 つの高等学校から 17 演題が発表された。大学教員や他校の高校生からの質問など非常に活発な討議がなされ、発表時間を過ぎてもまだなお続き、次のセッション（ランチョンセミナー）開始ギリギリまで活発な討議が続けられた。

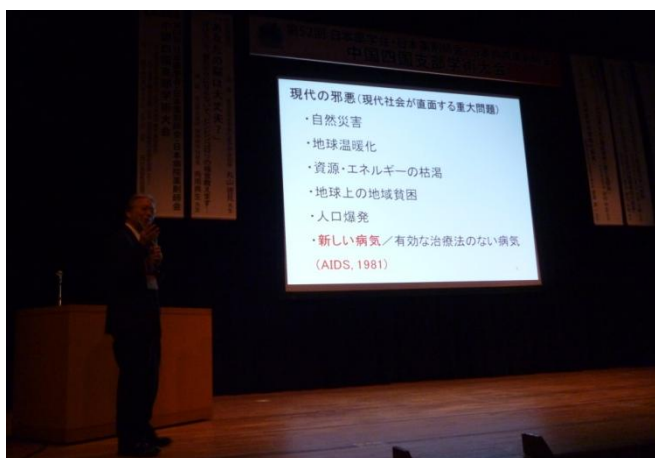


大学教員の質問に丁寧に答える高校生



熱気あふれるポスター発表会場

ランチョンセミナーには、徳島文理大学学長 桐野豊先生を招き、「薬学の世界への招待」のタイトルにて御講演いただいた。参加した高校生からは、「非常にわかりやすい説明で当該高校生オープン学会の中で一番印象に残った。」「プレゼンテーションの手法として、自分たちの発表の見本としたい」などの感想がよせられ、セミナーが高校生にとって大変有意義なものになったと思われた。



徳島文理大学 学長 桐野豊先生の御講演

午後から行われた口頭発表のセッションでは、5つの高等学校から9演題が発表された。限られた時間の中で工夫を凝らしたプレゼンテーションがそれぞれ行われた。また、フロアで発表を拝聴する他高校の高校生から活発な質疑があり、発表者と様々な議論が交わされた。



活発な質疑応答が交わされた口頭発表

プログラムの最後には、優秀発表賞が表彰された。いずれの発表も甲乙つけがたい優れた内容だったが、目的の明確さ、検証アプローチの精度、結論の論理性、そしてプレゼンテーションの巧さなどが評価され、ポスター発表部門から2演題、口頭発表部門から2演題がそれぞれ表彰された。表彰された演題は次のとおりである。

【ポスター発表部門】

「P-9 大根の耐塩性」

愛媛県立松山南高等学校 三河史弥さん、大野聖莉奈さん、玉田梨紗さん、田村英大さん（指導教員：高橋遼介先生）

「P-14 ラセンイの茎はなぜらせん状に伸びるのか」

愛媛大学附属高等学校 馬越真由佳さん（指導教員：大原聡先生、松原邦明先生、庵野和真先生）

【口頭発表部門】

「O-1 植物性油は酸化されやすいか」

清心女子高等学校 岩崎香織さん、石井詩織さん、泉真央さん（指導教員：山田直史先生）

「O-7 漢方薬に含まれる化学成分を分析する」

済美学園済美高等学校 鶴崎友希子さん、豊田遥さん、西原あすかさん、橋本優里絵さん（指導教員：正岡良一先生）



表彰式

非常にタイトなスケジュールであったが、徳島文理大学・香川薬学部・野地宏美教授の司会により円滑に会が運営され、ほぼ予定通りに閉会した。

高校生のための当該企画は、今回で2回目の開催となるが、昨年よりも多くの演題・参加者が集まった。そして、参加高校生同士はもとより高校生と大学教員等と非常に活発な意見交換や交流が図られ、大変意義深いものとして成功裡に終えた。

日本薬学会中国四国支部・大学選出幹事
渡邊正知